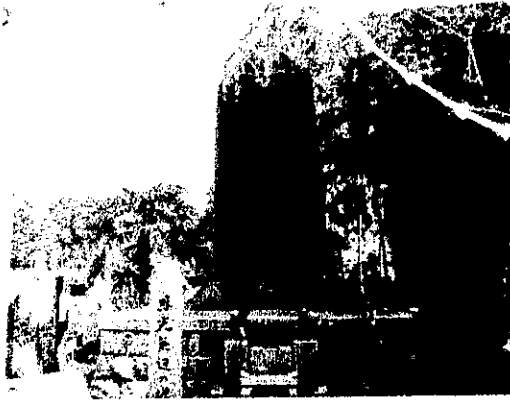


水戸殉難者恩光碑保存会 会報

知恩 第十八号

恩光無辺の碑



平成27年9月27日 撮影
碑の裏面に
殉難諸士の姓名が刻まれている



祇園寺 山門

追悼の辞

本日、ここに、水戸藩「諸生派国事殉難士」慰霊法要挙行に当たり、ご来賓の皆様ご臨席のもと、子孫代表者一同、碑前に集い、殉難諸士のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

幕末維新の激動期に、国の行く末を憂い、一途に尊皇敬慕・報恩士道の信念のもとに、国事に奔走

し、不慮の死を遂げ、屍を各地の山野にさらし、多くの有為の人材が散華されました事は、誠に痛恨の極みであり、残念であります。

本日、ここに、往事を偲び、改めて、各地に散華した人々に思いを致し、この先祖代々の地・水戸に於いて、鎮魂慰霊の誠を捧げるものであります。

又、
本年は、殉難諸士にとって、記念の年となりました事をご報告申し上げます。

水戸市内、神應寺にのこされた「慷慨淋漓の碑・拓本」が水戸市指定文化財に指定されたことであります。前会津藩主・松平容保公は、「戊辰戦争」のご体験とそのご心境から、殉難諸士を心から哀悼し、その武士道を讃えられ、碑文にのこされています。その詩文の一部を拝読申し上げます。諸士の御霊に捧げます。

「明治戊辰の變、宗家の転覆を悲しみ、慷慨発憤、死を水戸、会津、越後等の地に致す者凡そ三百人、今年十七回忌に當り、親戚故舊相謀り碑を水戸城西常磐村神應寺に建て、余をして之を銘せしむ。

嗚呼余亦戊辰の亂に遭ひ、矢石の間に間關する者、銘に臨んで 豈 悽然の気なからんや。
銘に曰く

銘に曰く

何を以て主恩に報ぜん

唯だ一死有るのみ

死各其所を異にするも

魂は同じく桑梓に帰す

いわんや藩祖の廟に近く

その志乃ち遂ぐ

地高くして松青く

豊碑千祀に傳ふ」

私共は、幕末騒乱に際し、不幸にして散華した人々に光をあて、この慰霊の行事を通して、殉難諸士の名誉回復に努力し、水戸藩の歴史の真実を風化させることなく、末長く後世に伝えて参る所存であります。

幕末維新の激動期に、「事實」は、元治元年・諸生党建言書に表明された「志」と異なる結果となりましたが、重ねて心よりご冥福をお祈り申し上げます。

平成27年9月27日

水戸殉難者恩光碑保存会

会長 川上有文

水戸藩国事殉難者慰霊法要

別称・水戸藩国事殉難志士を慰霊する会
水戸殉難者恩光碑保存会
慰霊法要実行委員会

日時 平成27年9月27日(日)

場所 祇園寺本堂内にて慰霊法要
の式典を行う(本日雨天)
恩光無辺の碑に献花・焼香
参拝も行う

水戸市教育委員会

歴史文化財課長

白石嘉亮様

幕末維新水戸有志を偲ぶ会

事務局長 川上 清様

茨城新聞社

相談役 市村眞一様

編集部長 武藤秀明様

6 焼香参拝 会員各位・

閉式 午後12時30分(岡見委員)

7 記念写真

本堂内にて 参列者 記念写真
を撮影

撮影後 客殿大広間に移動

第2部(会食 交流)

客殿・大広間にて

開会 午後1時

1 開会の辞(司会・岡見委員)

2 主催者挨拶 前澤瑞穂副会長

3 来賓挨拶 岡田広参院議員

4 来賓挨拶 村田進洋議長

5 来賓挨拶 高橋丈夫議長

6 講話 市村眞一様

7 懇談・相互交流

8 閉会の辞(司会・岡見委員)

9 全終了 午後3時

散会

追悼の辞

水戸市長 高橋 靖

本日は、水戸藩国事殉難者慰霊

法要が多くの皆様のご参集のもと、
厳粛に開催されますことをお喜び
び申し上げますとともに、幕末・
維新时期における殉難者の方々のご
冥福を心よりお祈り申し上げます。
さて、幕末・維新时期における水
戸藩では、藩を二分する戦いによ
り、数多くの尊い命が失われ、明
治維新以降も人々の間に様々なわ
だかまりを残すことになりました。
こうした中、水戸殉難者恩光碑
保存会の川上会長をはじめ、関係
者の皆様におかれましては、日頃
より、幕末・維新时期における水戸
の先人たちの業績の顕彰に努めら
れますと共に、水戸のたどった悲
しく、痛ましい歴史上の出来事を
伝承するため、会報「知恩」の発
行はもとより、調査研究や普及啓
発活動を精力的に展開されており
ますことに、深く敬意を表する次
第で御座います。

また、本年6月には、会津市の
(会津史談会)の皆様が来水された
際には、市内各地をご案内いただ

き、厚いもてなしをしていただい
たと伺っており、深く感謝申し上
げます。本市におきましても、こ
れまで、恩光碑の修復への補助や、
長岡市寺泊(てらどまり)の名刹
(めいさつ)法福寺(ほうふくじ)
に葬られた佐藤 凶書(ずしよ)
の墓に、文化遺産説明板を設置し
たほか、神應寺(じんのうじ)に
ある諸生派慰霊碑「慷慨淋漓(こ
うがいりんり)の碑」を市文化財
に指定するなど、幕末・維新时期の
歴史の顕彰に取り組んでいるとこ
ろでございます。今後とも、各地
に現存する慰霊碑や資料の検証な
どを通じ、悲惨な戦いの中で近代
を迎えた郷土水戸の先人達を偲び、
歴史上の事実を後世に伝えていく
取組を、より一層推進してまいり
たいと考えておりますので、皆様
のご支援、ご協力を賜りますよう、
よろしく、お願い申し上げます。
結びに水戸殉難者恩光碑保存会の
今後益々のご発展と、本日も参集
の皆様のご活躍と、本日も参集
勝をお祈りいたしまして、追悼の
言葉といたします。

平成27年9月27日
水戸藩国事殉難者慰霊法要
ご参列の皆様
祇園寺の本堂内にて

平成27年9月27日
慰霊法要出席者は次
のとおり

祇園寺

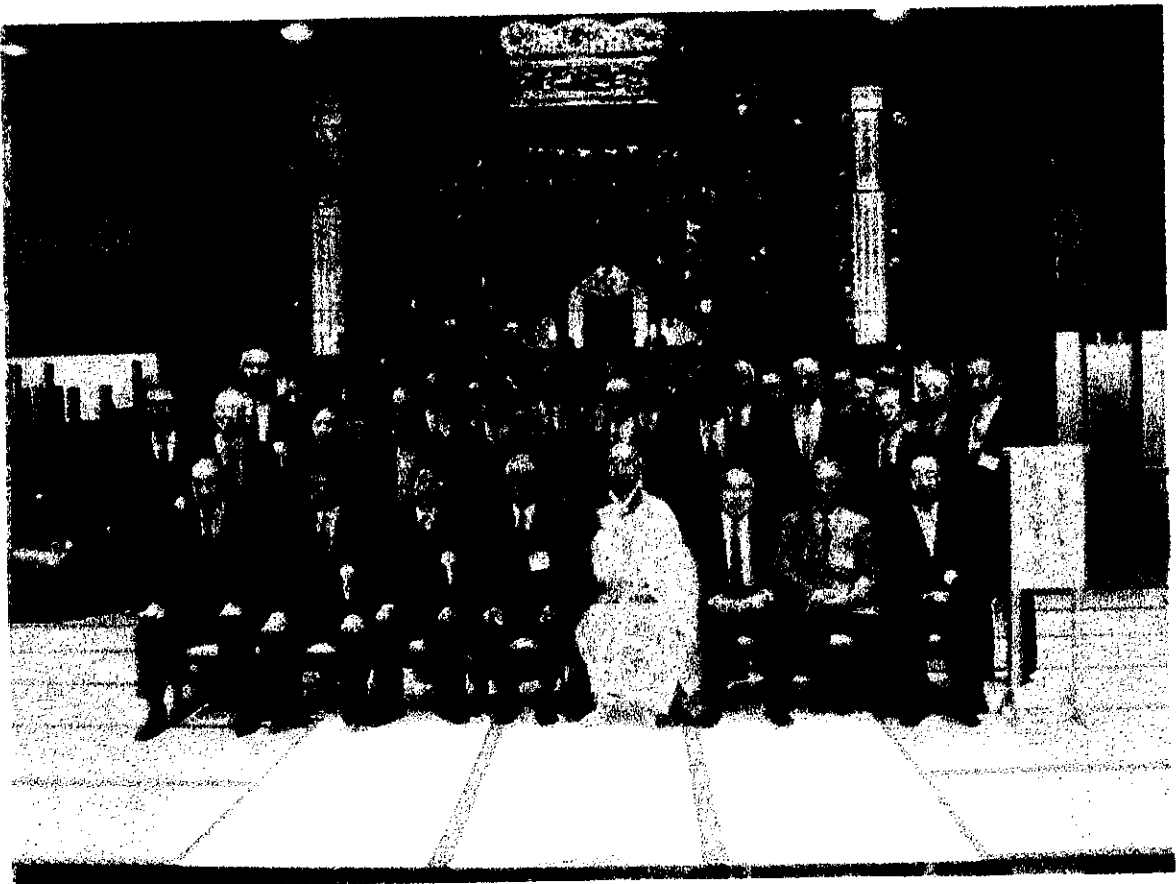
住職 小原宜弘様
副住職 小原様

来賓の皆様

高橋 靖様 水戸市長
岡田 広様 参議院議員元水戸市長
村田進洋様 水戸市議会議員
高橋丈夫様 水戸市議会議員元議長
本多清峰様 水戸市教育長
中里誠志郎様 水戸市教育部長
白石嘉亮様 水戸市歴史文化財課長
川上 清様 水戸有志を偲ぶ会理事
市村眞一様 茨城新聞社相談役
武藤秀明様 茨城新聞社編集部長

会員及び
法要実行委員

川上有文 委員
大森信男 委員
前澤瑞穂 委員
朝比奈泰紀 委員
岡見円礼 委員
深谷益美 委員
平戸吉衛 委員
弓削徳衛 委員
田口 寛 委員
朝比奈泰将 委員
市川達也 委員
松葉尚志 委員
大森信樹 委員
大森悦朗 委員
川上有俊 委員
宇留野光 委員
成田行弘 委員
小山文子 委員
遠西輝夫 委員
阿久津俊男 委員
門井孝廣 委員
塩澤浩一 委員
岡見京子 委員
川上良子 委員
塩澤美奈子 委員
塩澤友理 委員
塩澤真未 委員
塩澤涼太 委員



水戸藩国事殉難者慰霊法要 参列記念
2015年(平成27年)9月27日

講話・要旨 (平成27年6月13日)

「幕末維新时期水戸藩党派の抗争を巡って」

講師 元茨城県立歴史館 史料部長 宮澤正純先生

1 水戸藩の党派はどのようにして発生し、対立したのか

・大日本史編纂をめぐる立原派と藤田派の対立も一因であろう
対立のあと斉昭は藤田派の意見を採用、

第9代水戸藩主・斉昭擁立を巡って対立 斉昭藩主就任

・藩主斉昭は、水戸藩政に、斉昭擁立派「中・下士級藩士」を登用、旧来の「上級藩士・重臣級」を排除

政治的対立激化

・尊攘激派は筑波山に挙兵、対立派の「諸生派」と遂に武力抗争になった

・天狗の名のおこりは、藩主斉昭と幕府老中阿部伊勢守との書翰集『新伊勢物語』に斉昭は天狗について書いて書いている

諸生派の名のおこりは、史料

『弘道館教授存意書』にその名が見られる

2 藩政上の立場は

・諸生派は上級武士

・天狗は中・下級武士の集り

・上級武士は藩成立時に 家康公の命により水戸家へ仕えた者が多い
下級武士はその後現地採用になった者が多い

・墓地も上級武士は寺院に多く、中・下級武士は常磐、酒門の共有墓地が多い

3 斉昭は 藩主就任にあたり藩政方針を『告志稿』に書き藩士領民に訓示した

・眼前の主君を無視し 天皇・朝廷に直接働きかけてはいけないそれは罪になる と

・藩士は主君 幕府 朝廷 天皇と秩序を乱してはいけないと論している

4 武力抗争の起点・「尊攘論」への対応は

・天狗・尊攘激派は「攘夷実行 横浜鎖港 幕政改革」を標榜し

・藩士らは弘道館の学生であるが、尊攘激派、中間派、穏健派と色々なグループが活動していた

・最後には、天狗に対立したグループの総称として、明治以降一括して諸生派といわれた

・幕府は 筑波挙兵は 認めぬ 水戸藩と諸藩へ天狗の鎮圧命令を出す

・「三家水戸藩も同調、天狗勢の筑波挙兵は認めぬ方針

5 藩内抗争 と 農村動向は
・斉昭は、中下士・斉昭擁立派を藩政に登用し、改革を進める
旧来の門閥派を排除する

・斉昭失脚後、農民は雪冤運動に奔走した

・次の事件が次々と起こった。
① 戊午の密勅問題
② 安政の大獄「水戸藩士処分」
③ 長岡で『勅諭』返還阻止

「尊攘激派は藩主に背いて」
④ 桜田門外の変
⑤ 文久年間の攘夷活動

⑥ 元治元年 筑波山挙兵
天狗「尊攘激派」と 幕府諸藩連合軍及び諸生派の戦い

水戸領内戦争で天狗勢敗北、京都を目指し西上するも敦賀にて降伏 幕府処断 天狗党壊滅

天狗勢は、大子より西上・出発より天狗党 という

⑦ 大政奉還

⑧ 戊辰戦争

⑨ 明治元年 (1868年)
天狗「尊攘・本圀寺派・天狗党」と 諸生派の戦い

水戸藩諸生派八日市場で壊滅
6 農村動向は「農民兵は」
・潮来・玉造郷校「農民等」筑波天狗に参加、郷校の館長は天狗激派の人物が就任している

こちらは、天狗に徴用され、荷駄の運搬などに携わる

これに対して、天狗・田中隊から村を守るために、60ヶ村の農民が自衛の為に立ち上がった。

これが「鯉淵勢」である
後に水戸藩庁の命に従い天狗追討に幕府の一翼として活躍する

こちらは、積極的に戦場で活躍する
『賊徒追討戦場日記』が現存する

「河和田勢」は 水戸城の守りとして、水戸藩庁の指示に従って行動した

・領内北部を中心に、結城派郷士「農民」が積極的に活動した

安政4年の「凶事」、結城事件に連座し 天狗政権より弾圧をうけ、その対応から積極的に

天狗追討に立ち向かう・戦う
「薄井勢」「星勢」「寺門勢」
「石井勢」の活躍が顕著である
・水戸藩内抗争は、武士階級だけでなく、水戸領内全体に郷土、農民、神官、など庶民を含めた大争乱になった

7 結果として、天狗勢は敗走、大子より、「天狗党」として体制立て直し京都に向かう
西上行軍 敦賀で降伏する
幕府の処断により壊滅

8 斉昭の姿勢、阿部老中に書翰にて天狗勢を賞賛し、門閥諸生派を悪しざまに書いてある
『新伊勢物語』に詳しく書いてある 史料参照

9 兩派の行動は、過激すぎた行動は否定できない 20数年対立してきたので憎しみの頂点に達していた そして、骨肉・争う凄惨な結果となった

元治元年 天狗党の乱 では諸生派が官軍であり天狗党は賊軍であった

明治元年 勝者・天狗側が官軍で、敗者・諸生派は賊軍になった

以後、諸生派子孫関係者は弾圧をうけ、悲惨な状況に遭った

鈴木、朝比奈、市川、佐藤、大森の重臣家は一族全滅、幹部家族は水戸に居住不可能であった
離水する者多し、多くの諸生派の家族は水戸より離散した

10 勝利後の行動は、又 相手の扱いは

元治元年 勝者・諸生派の天狗残党刈り 家族の処刑など
赦しすぎた 何故そこまでしたのか

家族までの処刑は行き過ぎも甚だしい 武田家一族など
明治元年 勝者・天狗側の諸生派残党狩り あまりにもひどすぎる 多くの人材を処刑した
諸生派は全滅状態になった
城代家老鈴木石見守の幼い子供も処刑された、余り知られていない、

天狗党の弾圧激しく、多くの諸生派家族が犠牲になった
助かった諸生派家族は 水戸に居ることは出来なかった 各地に逃避した

11 明治新政府は(薩長藩閥政府)天狗たちを認め、諸生たちを旧幕府側として否定した

明治以後、天狗派「尊攘激派」

が政権を掌握し、諸生派の人々を徹底的に弾圧した
茨城県の役人の大部分は天狗たち、諸生派はわずかであった
水戸藩の為に尽力したのに賊軍として 否定された
諸生派農民も同じ

現在、靖国神社に天狗党として没した多くの人々が祀られている、茨城県護国神社にも祀られている

国の為に殉難した諸生派の人々は一人もいない、明治政府・薩長藩閥政府の方針であった
諸生派遺族は追放状態にあり、家名も認められなかった
家名復興・復権を茨城県の天狗政権に申請したが認められず、栃木県令にも申請したがやはりダメであった

明治22年憲法発布を以て、大赦、家名復興を許可され復権する
13 農村の実態は、未だ不明、史料の発掘により顕彰する必要がある
しかし、残念ながら 諸生派に関する「史料」は殆ど無い状況にある

諸生派農民については その実態が 全く 今も分からない状況にある

況にある
天狗党の圧迫・弾圧に耐えかねて焼却処分されたか、又は 没収され焼却処分されたか残念である。今後の研究にお願いする以外にない。以上(文責川上)

★関連事項 元本会顧問

故来栖平造氏著書より

明治元年、武田金次郎勢及び本園寺党が京都を発し、5月水戸に到着すると直ちに諸生派に対し、暴虐極まりない追求と殺人を行った。

このような殺戮の為、3才以上の男子をすべて殺されるとの噂が広まり。鯉淵勢をはじめ諸生派に加担した農兵隊の者は領外へ落ち延びた者も多数あった。その時の執拗な探索と過酷な処置は、現在迄土地の人々に語り伝えられている程であったが為、やがて鯉淵勢への参加を口にする人々はなくなり、記録は意識的に忘れられた。鯉淵勢の実態が不明な理由の一つはこの事にある。その外の農兵隊も同様である。

参加者募集

来年（平成28年度）の主行事として、次のように、予定しています。尚、詳細については、後日改めてご連絡致します。

日時 平成28年5月21日（土）
場所 千葉県匝瑳市八日市場
中台脱走塚 墓前慰霊式
参加者会費 五千円の予定
来賓

水戸市の方々
匝瑳市の方々
水戸藩士の史跡を顕彰する会
八日市場地元の方々

本会の会員 外
訪問先予定

- 1 水戸藩松山戦争匝瑳市関係史跡
- 2 八日市場図書館
- 3 福善寺 八日市場
- 4 大松庚申塚 八日市場
- 5 龍生院 八日市場
- 6 脱走塚 墓前慰霊式 举行
- 7 大阪 八日市場戦闘場所
- 8 安養寺 八日市場
- 9 長泉寺 水戸浪士の墓
- 10 良福寺 千葉県銚子市
- 11 銚子市 魚市場
- 潮来 道の駅「買い物物等」

◆これまでの慰霊の経過

明治2年戦死25人之墓 建立
地元有志

明治21年二十一回忌墓前法要
地元主催

大正15年水戸藩志士弔魂碑建立
地元有志

昭和43年 百回忌墓前法要
朝比奈知泉 撰文

平成20年 百四十回忌墓前法要
水戸殉難者恩光碑保存会主催

平成28年百四十八回忌墓前法要
本会主催予定

この松山戦争は、水戸藩諸生派の最期の戦いであり、明治元年10月6日この戦いで壊滅しました。この地が、水戸藩諸生派終焉の地となり、以来、長期にわたり地元の方々の手厚い供養により、今日に至っております。

匝瑳市八日市場における此の事は、一般には知られていない。水戸でも知る人は非常に少ない。

水戸人として、多くの方々が、平成28年5月21日の慰霊の行事に参加し、地元の人々の心温まる心情と長年の供養に、心から、感謝の意を表したいと思えます。

★来年度の予定について

平成28年度は、匝瑳市八日市場の諸生派終焉の地を訪問、墓前にて慰霊法要を行う予定です。できれば、準備の関係にて予定だけでもご連絡頂ければ助かります。

ご一報頂いた方には、2月に募集の詳細を正式に通知します。

★魁のまち・水戸の風格ある歴史の町作りに向けて

一枚瓦城主による旧水戸城大手門・二の丸隅櫓・塀の復元整備に協力し「一枚瓦城主」の募集に応じ水戸殉難者恩光碑保存会として寄付協力をしました。

「寄付・三万円」

★本会は、会員の会費のみで運営しています。会費未納の方は是非会費を納入下さいますようお願い致します。

★会員募集

水戸藩士子孫、親戚、知人、慰霊の趣旨賛同の方、水戸藩幕末史に関心のある方、どなたでも、連絡をお待ちしています。

★編集後記

★朝・夕、かなり、冷え込んで来ました。向寒の折、皆様ご健康に留意されてお過ごし下さい。★本年は、記念すべき年であったと思えます。

2月 水戸市 神應寺所有の「慷慨淋漓の碑拓本附台石」が水戸市指定文化財に指定されました。

5月 近世日本の教育遺産群として、弘道館など「日本遺産」に認定されました。

6月 「幕末維新期水戸藩党派の抗争を巡って」講演会を開催。
8月 会津史談会ご一行様が水戸歴史研修で来水。

会津・水戸の交流会を開催
9月 諸生殉難者の慰霊法要を举行。

例年になく充実した年でした。

★会報・知恩第18号

平成27年11月15日発行

水戸殉難者恩光碑保存会

「別名」水戸藩国事殉難者を慰霊する会

発行人 川上有文
作成・編集・印刷

編集委員会

水戸藩諸生派国事殉難者 慰霊供養の経過

2015年(平成27年)9月・記
水戸殉難者恩光碑保存会

- 1 1864年(元治元年)3月 尊皇攘夷激派・筑波山挙兵「天狗党の乱」
 - 2 1864年(元治元年)5月 弘道館諸生尊皇攘夷激派鎮圧のため決起し、「諸生党建言書」を水戸藩主・徳川慶篤公に上程する
諸生建言書 (水戸藩士、後の東京大学教授・内藤弥太夫・耻叟の起草)
 - 3 1865年(慶応元年)2月 水戸藩脱藩 天狗党浪士・西上勢「尊皇攘夷派激派」・教賀にて壊滅
 - 4 1868年(明治元年)10月 水戸藩 「諸生派市川勢」 八日市場の戦にて壊滅
千葉県匝瑳市八日市場中台の地が水戸藩諸生派(市川勢)終焉の地となる
 - 5 1884年(明治17年) 慷慨淋漓の碑・建立 (拓本のみ現存) (水戸市、神応寺) (諸生派有志)
篆額・前会津藩主 松平容保公、撰文・東京大学教授 南摩綱紀先生
 - 6 1934年(昭和9年) 恩光無辺の碑・建立 茨城県水戸市八幡町11-69 祇園寺境内 (室田義文翁)
 - 7 1934年(昭和9年) 恩光無辺の碑・碑文 篆額・室田義文(天狗党)、撰文・朝比奈知泉(諸生派)
 - 1934年(昭和9年) 水戸殉難志士恩光碑保存会を創立する (諸生派子孫)
 - 8 1935年(昭和10年) 「恩光無辺碑」除幕式を挙げる (祇園寺)にて(除幕式)
(室田義文翁ほか、諸生派遺族 参列)
 - 9 1936年(昭和11年)9月23日 水戸藩国事殉難者慰霊祭を挙げる (祇園寺)にて(第1回慰霊祭)
水戸市 祇園寺 恩光無辺碑前において、田中光顕・前宮内大臣外、随員、と
県知事、水戸市長、水戸警察署長 参列、遺族が参列し 慰霊祭を挙げる
 - 10 2004年(平成16年)9月23日 水戸藩国事殉難者慰霊法要を挙げる (祇園寺)にて(慰霊祭を復活)
恩光無辺碑・建碑後70年を記念して慰霊祭実行委員会を組織し、70年の空白を埋め
終戦後、初めて法要を挙げる
 - 2006年(平成18年) 水戸殉難者恩光碑保存会を設立する (諸生派子孫、趣旨賛同者)
 - 11 2007年(平成19年)9月22日 水戸藩国事殉難者慰霊法要を挙げる (祇園寺) (本会主催第1回)
水戸市 祇園寺「恩光無辺碑」前において慰霊式を挙げる
 - 12 2008年(平成20年)10月6日 水戸藩国事殉難者慰霊法要を挙げる (八日市場) (本会主催第2回)
千葉県匝瑳市八日市場・水戸藩諸生派(戦死者25人之墓)墓前において法要を挙げる
 - 13 2009年(平成21年)9月22日 水戸藩国事殉難者慰霊法要を挙げる (祇園寺) (本会主催第3回)
 - 14 2010年(平成22年)10月27日 水戸藩国事殉難者慰霊法要を挙げる (会津) (本会主催第4回)
会津若松市 白虎隊記念館前・(水戸藩諸生党鎮魂碑)前において慰霊式挙げる
 - 15 2011年(平成23年)9月24日 水戸藩国事殉難者慰霊法要を挙げる (祇園寺) (本会主催第5回)
 - 16 2012年(平成24年)10月24日 水戸藩戊辰戦争戦没者慰霊祭を挙げる (新潟県) (共催 第6回)
新潟県柏崎市西山町灰爪669番地 (北越戊辰の役当所戦没者供養塔)・前において
幕末維新水戸有志を偲ぶ会と共催にて慰霊式を挙げる
 - 17 2013年(平成25年)9月14日 水戸藩国事殉難者慰霊法要を挙げる (祇園寺) (本会主催第7回)
 - 18 2014年(平成26年)4月21日 水戸藩国事殉難者慰霊法要を挙げる (会津) (本会主催第8回)
会津若松市 白虎隊記念館前・(水戸藩諸生党鎮魂碑)前において慰霊式挙げる
 - 19 2015年(平成27年)9月27日 水戸藩国事殉難者慰霊法要を挙げる (祇園寺) (本会主催第9回)
- そのほか
- 1869年(明治2年) 戦死25人之墓 建立 千葉県八日市場・諸生党壊滅の地 (地元有志)
 - 1888年(明治21年) 同上・21回忌 法要 八日市場・墓前法要 (地元主催)
 - 1968年(昭和43年) 同上・100回忌 法要 八日市場・墓前法要 (地元主催及び水戸市)
 - 1888年(明治21年) 戦死者供養塔 建立 栃木県片府田・宝寿院境内 (地元有志)
 - 1931年(昭和6年) 長岡原殉難者供養忠魂之碑 建立 水戸市、蓮乗寺境内に移転 (地元有志)
 - 1931年(昭和6年) 殉難者供養塔 建立 水戸市、赤沼獄舎跡 (地元有志)
 - 1989年(平成元年) 戊辰戦争当所戦没者供養塔 建立 新潟県柏崎市西山町 灰爪の丘 (地元有志と茨城有志)
 - 1994年(平成6年) 恩光無辺碑域整備 由来碑 建立 水戸市、祇園寺境内 (来栖平造氏と水戸有志)
 - 2000年(平成12年) 水戸藩諸生党鎮魂碑 建立 会津若松市白虎隊記念館前 (来栖平造氏と水戸有志)
 - 2012年(平成24年) 恩光無辺の碑・標石柱 建立 水戸市、祇園寺境内 (水戸市)
 - 2013年(平成25年) 佐藤函書守信近・顕彰碑 建立 新潟県長岡市寺泊 法福寺墓所 (水戸市)



モバイル版茨城新聞配信中

(月額300円+税)

諸生派に光を

市村 真一

「勝は官軍、負けは賊軍」という言葉は重く思われます。ロで戦った会津藩士も水で壊滅し、147年に実を淡々と紹介している。あまは3年後の諸生

「勝は官軍、負けは賊軍」という言葉は重く思われます。ロで戦った会津藩士も水で壊滅し、147年に実を淡々と紹介している。あまは3年後の諸生

「勝は官軍、負けは賊軍」という言葉は重く思われます。ロで戦った会津藩士も水で壊滅し、147年に実を淡々と紹介している。あまは3年後の諸生

「勝は官軍、負けは賊軍」という言葉は重く思われます。ロで戦った会津藩士も水で壊滅し、147年に実を淡々と紹介している。あまは3年後の諸生

「勝は官軍、負けは賊軍」という言葉は重く思われます。ロで戦った会津藩士も水で壊滅し、147年に実を淡々と紹介している。あまは3年後の諸生

水戸市は扱い公平に

「勝は官軍、負けは賊軍」という言葉は重く思われます。ロで戦った会津藩士も水で壊滅し、147年に実を淡々と紹介している。あまは3年後の諸生

「勝は官軍、負けは賊軍」という言葉は重く思われます。ロで戦った会津藩士も水で壊滅し、147年に実を淡々と紹介している。あまは3年後の諸生

「勝は官軍、負けは賊軍」という言葉は重く思われます。ロで戦った会津藩士も水で壊滅し、147年に実を淡々と紹介している。あまは3年後の諸生

「勝は官軍、負けは賊軍」という言葉は重く思われます。ロで戦った会津藩士も水で壊滅し、147年に実を淡々と紹介している。あまは3年後の諸生

「勝は官軍、負けは賊軍」という言葉は重く思われます。ロで戦った会津藩士も水で壊滅し、147年に実を淡々と紹介している。あまは3年後の諸生

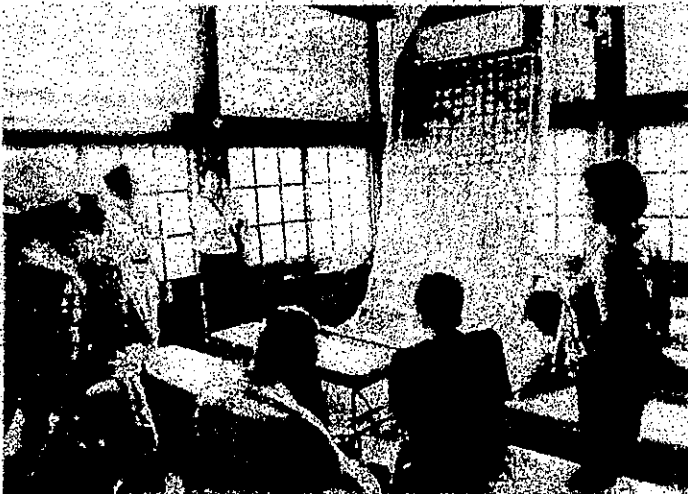
(茨城新聞社相談役)

笠間支局

☎0296(72)0004 ファクス(73)0163

◇身近な情報をお寄せください

諸生派史跡、子孫と巡る



「慷慨淋漓の碑拓」を見学する会津史談会の一行＝水戸市元山町の神応寺

水戸で福島の研究団体

会津藩主の碑拓見学

福島県の郷土史研究団体・会津史談会(坂内美会長)一行22人が20、21の両日、会津藩と関わりが深かった水戸市を訪れ、幕末維新の戊辰戦争で共に戦った水戸藩諸生ゆかりの史跡を巡り、子孫でつくる水戸殉難者恩光碑保存会(川上有文会長)と交流した。

史談会は1931(昭)の歴史のある団体。文化和6)年発足で80年以上 史蹟座の一環で、会津ゆ

かりの土地探訪として、水戸市内では常磐神社義烈館や神応寺、祇園寺などを回った。

元山町の神応寺(奥田俊亮住職)では、今年2月に市指定文化財になった同寺所有の「慷慨淋漓の碑拓」を見学した。この碑は、幕末の水戸藩の内乱で天狗党に敗れた諸生派の人たちの死を悼み、十七回忌法要として1884(明治17)年に建立。拓本は設置直前に取られたとみられ、精巧に写し取られている。

「慷慨淋漓」の文字は会津藩第9代藩主・松平容保の書。碑文は会津藩の漢文学者で東京大教授を務めた南摩綱紀が作成し、水戸藩の画家、松平雪江(俊雄)が清書した。諸生派が徳川家の恩に報いるために命をさげ、戦った気持ちを表現している。奥田住職は一礎石

は70年前の水戸空襲で失われてしまった。防空壕にしまっておいた拓本が残り、文化財となっておりがたい」などと経緯を説明した。

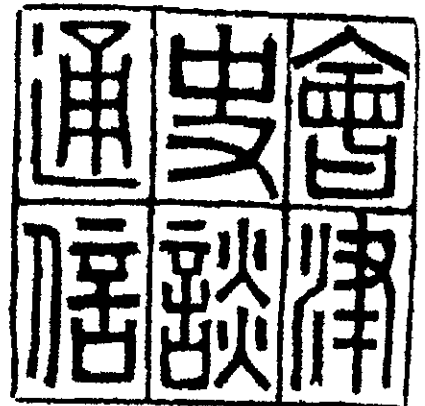
同市八幡町の祇園寺で史談会の坂内会長は「戊辰戦争で会津藩と共に戦った水戸藩諸生派は、不幸にも敗者となった。一戊辰戦争で会津藩と共に戦った水戸藩諸生派は、不幸にも敗者となったが、松平容保公が彼らの義に感じ入って作成した碑文拓本を見て感動した」などと話していた。

一行の探訪には、水戸殉難者恩光碑保存会会員が講師役で付き添った。同会は2010年と昨年に会津訪問しており、川上会長は「会津の人たちと共に戦い、同じ運命をたどった諸生派。今後も交流を深めたい」と話した。

(武藤秀明)



水戸市元山町にある「慷慨淋漓」の碑拓



会津史談会

第74号

発行日 平成27年10月1日

発行所 会津史談会 実業委員会

発行人 会津史談会 編集委員

編集 会津史談会 編集委員



井上 昌威
副会長(研修担当)

「あいさつ」

平成二十六年度から会津史談会副会長を仰せ付かり、伝統ある研修部・文化史講座代表を務めさせて戴いて居ります井上昌威と申します。宜しくお願ひ申し上げます。

会津史談会は歴史の郷会津若松市に、創立以来八十有余年の歴史を誇る、郷土史研究団体でもあります。歴代の諸先輩方が鋭意研究された、会津史の幅広い研究論文、また奥の深い文化史講座の史蹟探訪などは、機関誌「会津史談」や「史談通信」等に発表されて、後輩の私達は多くの知識を学ばせて戴いて来りました。

今年平成二十七年には「会津史談・第九十号」特集号が発刊

されます。乞うご期待。

会津史談会主催、文化史講座の始まりは、以前、会津若松市中央公民館が市民の為の教養講座として、年次行事で開催し会津史談会が資料作りのお手伝いをして居りましたが、公民館様の都合で行事を中止される事になり、会津史談会が全てをお引き受けして、会津史談会開催の年次行事として催している伝統ある行事です。従って運営経費は会津史談会とは別途会計となります。

「年会費四千円を支払い会津史談会の会員になった方が、改めて文化史講座の年会費三千円を支払い、文化史講座会員となります。」

また、旅行経費は実費となります。

ます。近年、別会費の事情をご存知無い方が増えましたのでご参考まで。

文化史講座現地研修は、一泊研修を含めて年間五回開催します。県立博物館で先生方の講演会や文化センターで理事会員の講演会を四回ほど計画して居ります。今年度の一泊研修旅行では水戸藩諸生派の未裔の方達と交流会をしました。郊外の感應寺では、明治十七年に実家に帰った松平容保公が水戸藩諸生派十七回忌の巨大な追悼石碑「慷慨淋漓之碑」を揮毫した拓本を拝観しました。(こうがいりんのひと読みます。) 現物は爆撃に会い消滅したが、今年水戸市の文化財になったという、幅一間高さ三間の大きな拓本に參觀者一同は圧倒されました。

来年度の文化史講座は、一泊現地研修会は古代から会津と非常にゆかりがある、信州の富岡製糸所界隈を予定しています。富岡の本当の歴史を知らないで、行った人は詰まらないと云いますが、この史実を知ったら大概の人は感動しますよ。文化史講座は伝統的に、永久保存が出来る資料を皆さんに配ってご案内を致します。

ヒント?富岡村の山中には樹齢が千五百年もの、巨大な桑の木があるそうです。

乞うご期待!

「慷慨淋漓」碑拓拝観 恩光碑保存会と交流会
会津と水戸の姉妹都市を!

水戸史蹟現地講座報告

平成二十七年年度文化史第三回現地講座(詳細三面)
八月二十日、二十一日、一泊二日実施。水戸市内会津ゆかりの地を探訪。神心寺、祇園寺等拝観、参拝研修。

神心寺では、平成二十七年二月、市指定文化財となった同寺所有の「慷慨淋漓」の碑拓を拝観。この碑は幕末戊辰戦争で会津藩と共に戦い、更に弘道館の戦いで天狗党に敗れた諸生党の人達の死を悼み、明治十七年(一八八四)十七回忌法要として建立された。拓本は設置直前に取られたとみられ精巧なもの。

「慷慨淋漓」の文字は会津藩主松平容保公の書。碑文は会津藩士の漢文学者で東大教授を務めた「南摩綱紀」氏が作成され、水戸藩の画家「松平雪江」(俊雄氏)が清書。

諸生派が徳川家の恩に報いるために命をささげて戦つたことを表

現している。碑石は七十年前の水戸空襲で消失、防空壕にしまっておいた碑拓本が残りようやく文化財になったという。

水戸市八幡町の祇園寺では、水戸藩諸生派を追悼する「恩光碑」前で献花、合掌礼拝を行い「冥福を祈念、今回の現地講座には水戸殉難者恩光碑保存会と水戸市教育委員の方々に案内役講師として付き添っていただいたことに感謝申し上げます。更には恩光碑保存会との親睦交流会に川上会長外五名の方々のご参加をいただき会津と水戸の歴史的絆を語り合うことが出来ました。会津若松市の白虎隊記念館には戊辰戦争で戦死された水戸藩士諸生党員の供養碑「水戸藩諸生党鎮魂碑」があります。今後、水戸と会津を語る会とか、会津若松市と水戸市が友好都市、あるいは姉妹都市として交流を深めることができれば大変素晴らしいことと共通した交流会でした。



(文責:内山武彦)